

令和4年度（2022年度）公社等経営評価書

公益社団法人あおもり農業支援センター

公益法人等用

1 法人の概要

基準年月日
(基本情報に係る基準日) 令和4年7月1日

法人名	公益社団法人あおもり農業支援センター	所管部課名	農林水産部構造政策課
代表者職氏名	(職名) 理事長 (氏名) 高谷 清孝	設立年月日	平成23年10月26日
所在地	〒 030-0801 青森市新町二丁目4番1号 青森県共同ビル6階	電話番号	017-773-3131
HPアドレス		FAX番号	017-734-1738
e-mailアドレス			

資本金・基本金等

資本金・基本金等	1,810 千円
(うち県の出資等額)	1,000 千円
(県の出資等比率)	55.2 %

設立の目的・事業の目的

農地の有効利用、農業の担い手の育成・確保、畜産基盤整備等の農業構造の改善等に資する事業等を実施することにより、本県の基幹産業である農業の持続的な発展に寄与すること。

主な出資者等の構成（出資等比率順位順）

氏名・名称	金額(千円)	出資等比率(%)
1 青森県	1,000	55.2
2 市町村(30)	680	37.6
3 農業団体	130	7.2
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		

経営目標

当支援センターは県民負担により成り立つ法人であることを踏まえ、引き続き、外部による監査体制を維持しながら、日頃から組織全体が経営・業務の改善に意欲的に取り組むほか、コンプライアンスを徹底する。
事業実施に当たっては、喫緊の課題である「人と農地」の課題解決や生産基盤の整備などを迅速に取り組むため、生産現場からのニーズを的確に捉え、常に創意工夫とスピード感を持った事業の推進を目指すものである。

主要事業の概要

主要事業	決算額(千円、%)						公益・収益等の別	補助金の有無	受託収入の有無	再委託の有無
	令和元年度(2019)	割合	令和2年度(2020)	割合	令和3年度(2021)	割合				
事業1 農地中間管理事業 (内容) 県が定める基本方針に則して、農地等を借り受け、担い手への農地の集積等に配慮して貸し付けることにより、農地利用の合理的な再配分と効率化・高度化を実現し、生産コストを削減するための事業	754,722	40.40 %	858,780	49.86 %	924,285	63.02 %	公益	有	無	無
事業2 農地売買等事業 (内容) 農地中間管理事業(貸借)の推進とともに、農業者のニーズに合わせて、農業経営の規模拡大や農地の利用集積に向け、規模縮小農家から農地を買い入れ、認定農業者など担い手農家に売り渡す事業	406,620	21.77 %	388,091	22.53 %	261,570	17.84 %	公益	有	無	無
事業3 公社営畜産基盤整備事業 (内容) 畜産基盤の合理化の推進と畜産経営に起因する環境汚染の防止等のため、将来にわたり畜産主産地としての発展が期待される地域において、生産基盤の整備や畜産施設の整備を行う事業	579,029	31.00 %	302,194	17.55 %	168,041	11.46 %	公益	有	無	無
上記以外	127,738	6.84 %	173,222	10.06 %	112,712	7.69 %	公益	有	有	無
全事業	1,868,109	100.00 %	1,722,287	100.00 %	1,466,608	100.00 %				

組織の状況

区分	令和2年度(2020)		令和3年度(2021)		令和4年度(2022)		前年度増減	増減理由
	県派遣	県OB	県派遣	県OB	県派遣	県OB		
役員	常勤	1	1	1	1	1		
	非常勤	12	2	10	2	10	2	
	計	13	3	11	3	11	3	
職員	常勤	19	7	17	6	20	6	3 農地中間管理事業推進員を非常勤から常勤へ切替
	非常勤	12	2	10	2	7	2	▲ 3 同上
	臨時職員	6		5		5		
	計	37	9	32	8	32	6	

役員平均年齢	— 歳	職員平均年齢	50 歳	職員の年代別構成	20代	30代	40代	50代	60代～	勤続年数(平均)
役員平均年収	— 千円	職員平均年収	5,851 千円		1人	5人	1人	4人	9人	9年

※常勤役員のみ

※常勤職員のみ(ただし、職員平均年収及び勤続年数はプロパー職員分)

2 財務の状況

(単位：千円)

項 目		令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	前年度増減	主な増減理由〔法人記入〕
収支等の 状況	経常収益	1,867,532	1,713,542	1,461,410	▲ 252,132	
	経常費用	1,868,109	1,722,287	1,466,608	▲ 255,679	
	当期経常増減額	▲ 577	▲ 8,745	▲ 5,198	3,547	前受金を経常収益へ振替したことによるマイナスの減
	当期経常外増減額	16	5,043	4,461	▲ 582	
	当期一般正味財産増減額	▲ 561	▲ 3,702	▲ 737	2,965	前受金を経常収益へ振替したことによるマイナスの減
	一般正味財産期末残高	134,002	130,300	129,563	▲ 737	
	借入金残高	236,077	121,819	125,884	4,065	
資産	資産	495,743	586,701	414,966	▲ 171,735	草地畜産基盤整備事業等に係る未収金の減
	負債	359,901	454,562	283,594	▲ 170,968	草地畜産基盤整備事業等に係る未払金の減
	正味財産	135,842	132,140	131,373	▲ 767	
県費等の 受入状況	補助金	646,733	450,776	358,210	▲ 92,566	
	事業費	528,524	341,462	256,508	▲ 84,954	林業関連事業の廃止及び草地畜産基盤整備事業の減
	運営費（人件費含む）	118,209	109,314	101,702	▲ 7,612	
	受託事業収入		31,547	9,493	▲ 22,054	林業関連事業の廃止
	負担金					
	交付金					
	貸付金					
	無利子借入金による利息軽減額 (長期プライムレートによる試算額)	258	215	150	▲ 65	県借入残高の減
	減免額（土地・施設等使用料等）					
	債務保証残高					
損失補償残高	209,228	100,533	111,045	10,512		

(単位：%)

財務分析指標		令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	前年度増減	主な増減理由〔法人記入〕
財務 構造	正味財産比率	27.40	22.52	31.66	9.14	負債（未払金等）が減ったことによる比率の増
	経常比率	99.97	99.49	99.65	0.15	
	総資産当期経常増減率	▲ 0.12	▲ 1.49	▲ 1.25	0.24	
	県財政関与率	34.64	28.16	25.17	▲ 2.99	
	補助金収入率	34.63	26.31	24.51	▲ 1.80	
	受託等収入率	0.13	1.88	0.67	▲ 1.20	林業関連事業の廃止による減
効 率 性	管理費比率	1.76	2.03	2.35	0.32	
	人件費比率	6.79	7.90	8.07	0.17	
財 務 健 全 性	流動比率	590.74	190.94	388.38	197.45	流動負債（未払金）が減ったことによる比率の増
	借入金比率	47.62	20.76	30.34	9.57	資産の減（草地畜産基盤整備事業等に係る未収金の減）による比率の増

3 経営評価結果等への対応状況

これまでの経営評価結果等 (改善事項等)	対応状況 〔法人記入〕	左に係る県所管部局の意見・評価 〔県所管部局記入〕																																													
<p>長期保有地の発生防止等に係る取組や未収債権回収に係る取組など経営基盤安定化に向けた取組状況について</p>	<p>長期保有地となるリスクが高い一時貸付事業は、令和元年度から新規買入を廃止している。一時貸付事業の残契約分や即売事業については、買受予定者との連絡を密にし、早期売渡しに努めており、令和3年度の長期保有地の新規発生は無かった。</p> <p>なお、未収債権については、業務代行員との連携による定期的な督促巡回を行うとともに、難回収者については債務確認や分割返済計画の履行状況を踏まえ、最終的には法的措置までを見据えた取組を進めていく。</p> <p>【長期保有農地の状況】 <目標 新規発生 0件/年> H30年度 0件(解消 1件(1.6ha)、年度末 13件) R1年度 0件(解消 5件(4.0ha)、年度末 8件) R2年度 3件(解消 2件(5.5ha)、年度末 9件) R3年度 0件(解消 1件(0.5ha)、年度末 8件)</p>	<p>一時貸付事業の廃止や分割納入への誘導、業務代行員の活用など、長期保有農地発生防止や未収債権回収の取組を強化しており、着実に経営基盤が安定してきている。</p> <p>県では、過去に受け付けた一時貸付事業の状況や、賃借料等の徴収状況等について定期的に状況を確認しており、引き続き支援センターの経営が安定するよう助言・指導していく。</p>																																													
<p>農地の集積・集約化の目標達成に向けた取組状況について</p>	<p>令和4年度は、県・農業会議・土地改良事業団体連合会・農協中央会の5者連名で、農地中間管理事業推進方策を策定し、</p> <p>①担い手への農地集約化に向けた取組強化 ②取組内容や対象の重点化による集中的な取組の展開 ③基盤整備事業と農地中間管理事業の連携強化 ④県民に対する農地中間管理事業の周知</p> <p>などの重点推進項目を定め、関係機関・団体で役割分担を明確化し、連携強化を図りながら事業を推進している。</p> <p>令和3年度の農地集積面積については、コロナ禍・米の概算金の下落という状況下、農地集積面積は計画対比77%、前年対比90%の実績にとどまった。令和4年度も、集落営農法人、大規模経営体、基盤整備地区を事業活用の重点対象として濃密な啓発活動を行っていく。</p> <p>【重点対象への農地集積面積の状況】 <目標 1,250ha/年> H30年度末 770ha R1年度末 967ha R2年度末 1,095ha R3年度末 964ha</p>	<p>5者連名での「農地中間管理事業推進方策」の策定、対象を絞り込んだ啓発活動等により、コロナ禍で対面活動が制限される中においても、令和3年度の集落営農法人等の機構事業を活用した貸借は、目標値の8割程度を確保しており、着実に取組の成果がみられている。</p> <p>県としても、引き続き支援センターと一体となり、農地中間管理事業のPR、農業委員会等の活動支援やほ場整備地区での活用促進に努め、一層の農地集積を促進していく。</p>																																													
<p>県や関係機関と連携した新規就農者の確保の取組状況について</p>	<p>令和元年度及び令和2年度の農業次世代人材投資資金の新規受給対象者が少なかったことに加え、令和2年度からの継続者が増加していることから、令和3年度の新規就農者は、前年度と同じ18人で目標(40人)対比45%にとどまった。</p> <p>今後は、就農相談等により受給者を増やし、新規就農者の増加に繋げるため、これまで実施してきたパンフレットの作成・配布、首都圏での就農関連イベントや営大祭等において就農相談会を開催するほか、リモートによる座学研修の受講体制の整備を行っていく。</p> <p>農業次世代人材投資資金による新規就農者数 (人)</p> <table border="1" data-bbox="779 1614 1276 1724"> <thead> <tr> <th></th> <th>2018(H30)</th> <th>2019(R元)</th> <th>2020(R2)</th> <th>2021(R3)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標①</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>就農者数②</td> <td>28</td> <td>24</td> <td>18</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>②/①</td> <td>70%</td> <td>60%</td> <td>45%</td> <td>45%</td> </tr> </tbody> </table> <p>農業次世代人材投資資金等受給対象者数 (人)</p> <table border="1" data-bbox="779 1774 1276 1914"> <thead> <tr> <th></th> <th>2018(H30)</th> <th>2019(R元)</th> <th>2020(R2)</th> <th>2021(R3)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規</td> <td>30</td> <td>23</td> <td>25</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>継続</td> <td>12</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>中止</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>44</td> <td>39</td> <td>40</td> <td>49</td> </tr> </tbody> </table>		2018(H30)	2019(R元)	2020(R2)	2021(R3)	目標①	40	40	40	40	就農者数②	28	24	18	18	②/①	70%	60%	45%	45%		2018(H30)	2019(R元)	2020(R2)	2021(R3)	新規	30	23	25	27	継続	12	14	14	22	中止	2	2	1	0	計	44	39	40	49	<p>農業次世代人材投資資金(準備型)受給者の新規就農割合が目標対比45%にとどまっているものの、支援センターが担っている農業次世代人材投資資金(準備型)の交付や就農定着に向けたサポート活動等により、本県の新規就農者数が年間300人の目標に対し、直近5か年の平均では約270人と高水準で推移している。</p> <p>県としても、令和3年度を受給者が増加傾向にあることから、引き続き支援センターと連携しながら、就農相談や研修の実施等の業務を着実に進め、新規就農者の確保・定着を推進していく。</p>
	2018(H30)	2019(R元)	2020(R2)	2021(R3)																																											
目標①	40	40	40	40																																											
就農者数②	28	24	18	18																																											
②/①	70%	60%	45%	45%																																											
	2018(H30)	2019(R元)	2020(R2)	2021(R3)																																											
新規	30	23	25	27																																											
継続	12	14	14	22																																											
中止	2	2	1	0																																											
計	44	39	40	49																																											

4 経営評価指標

(1) 法人自己評価

評価項目	対象指標 評点数	法人評価		(参考)	自己評価〔法人記入〕 (経営概況、経営上の課題・対策、得点率の増減理由等)
		評点数	得点率	前年度得点率	
目的適合性	16	16	100.00	100.00	<p>当法人は、農地の有効利用、担い手の育成確保、農林業や農山漁村の振興に資する事業等を実施し、農林業の持続的な発展に寄与することを目的に設立された法人である（令和3年度から林業関連事業を林業団体へ移管している）。</p> <p>当法人の基幹事業であった農地保有合理化事業については、平成25年12月に公布された「農地中間管理事業の推進に関する法律」に基づき見直しを行い、貸借部分については農地中間管理事業として、また、売買部分については、農地売買等事業として実施している。</p> <p>他の事業についても、法律や国・県の施策に基づき実施しているものであり、社会情勢の変化に対応するため、県と協議しながら事業の検証・見直しを行っている。</p>
計画性	34	27	79.41	79.41	<p>中期計画に基づき、毎年度計画と実績の比較検討を行い、2年連続で大幅な乖離が生じたこととなった場合や、新たな環境の変化等があった場合は、計画の修正・見直しを行うこととしている。</p> <p>また、年度計画の確実な推進のため、県等関係機関との連名による事業推進方策の策定や定期的開催する運営会議や課長会議において、各事業の進捗状況を確認し、必要な改善策を検討し実践している。</p> <p>なお、令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により農家や経営体等からの相談機会が減少するなどし、一部の事業について目標を達成できなかった。</p>
組織運営の健全性	40	35	87.50	87.50	<p>事業の遂行に関し、複数名によるチェック機能が働いていることや、外部監査人（公認会計士）による年2回の監査（中間・決算）及び内部監査並びに監事監査により、内部統制は充実しているものと考えている。</p> <p>また、人材育成については、職員のスキルアップのため、各種研修等に積極的に参加させている。</p>
経営の効率性	24	21	87.50	87.50	<p>当法人の事業の性格上、その財源の多くを国のほか、県・市町村からの助成金あるいは県が損失分を補償する借入金等で賄っていることから、県民の理解を得るため、常に経費節減に努めるとともに、定期的に適材適所を考慮した人事配置を行い、事業の効率化に努めている。</p> <p>特に、当法人の基幹事業の一つである農地中間管理事業については、貸借が年々累積し、事務量も増加しているが、運営方法を見直す等、効率的に業務を行うことで対応している。</p> <p>また、農地中間管理事業については、将来的には自主財源確保に大きく寄与することが期待できるほか、農地売買等事業については、需要状況を見極めながら推進していくことにより、当法人の経営安定に寄与していくとみている。</p>
財務状況の健全性	22	12	54.55	54.55	<p>当法人は国や県が進める施策に関する補助事業の実施主体となっており、運営費についても、当然に補助金が必要財源となっている。</p> <p>令和3年度は、当期一般正味財産増減額が△74万円と概ね計画どおりとなったものの、当期経常増減額では△5,198千円となり経常外収益として貸倒引当金戻入額が4,461千円あったことによりマイナスが抑えられたものである。</p> <p>今後とも、未収賃借料の回収や長期保有農地の新規発生防止などに努め、収支状況の改善のために債権管理をより徹底していくほか、担い手等のニーズに応じ、事業規模の拡大などを県と協議し、自主財源を含む収益性の確保を図る。</p>
合計	136	111	81.62	81.62	

(2) 県所管部局評価

評価項目	項目別評価		コメント〔県所管部局記入〕
目的適合性	◎	対応等は良好	当法人は、本県基幹産業の農業の持続的な発展に寄与することを目的に、農地の有効利用、農業の担い手の育成・確保等に取り組んでおり、国の政策変更等による事業名称の変更等はあるが、その実施事業は目的に即したものである（林業関連事業は、令和3年度に関係団体へ移管）。 また、常に県との協議を行い事業を検証し、社会情勢の変化にも対応しながら事業を進めていることから、対応等は良好とした。
計画性	○	概ね対応等は良好	2019年1月に中期経営計画を策定し、毎年度、目標の達成状況等を検証し、適切に取組や経営の改善が図られる仕組みとなっているほか、各事業の定期的な取組状況把握による内部検討も行っている。 また、コロナ禍で対面活動が制限される中においても、運営会議等を開催して必要な改善策を実施することで、農地集積等の各目標を概ね達成しているほか、基幹事業である農地中間管理事業は、外部評価委員会を設置して評価意見を受けることで、同事業の一層の改善に努めていることから、概ね対応等は良好とした。
組織運営の健全性	◎	対応等は良好	経理業務を含む業務全般を複数名でチェックする体制、内部監査の定期的な実施など内部統制は充実しており、コンプライアンス等についても県に準じた規程等を制定するなど、一定のレベルを確保している。 また、職員を各種研修等へ参加させるなど人材育成に取り組んでいるほか、主要事業をホームページやPR資料で情報発信していることから、対応等は良好とした。
経営の効率性	◎	対応等は良好	当法人の事業の性格上、財源のほとんどを国や県の補助金等で事業運営しているため、各事業の業務プロセスの改善などによる経費の節減や、適正な人事配置と経営状況を踏まえた人件費水準の確保に取り組んでいることから、対応等は良好とした。
財務状況の健全性	○	概ね対応等は良好	国や県が進める施策の事業主体となっており、当該事業に係る補助金等を受け入れるため、国や県の予算変動の影響を受けやすいものの、受け手不在となった農地の再貸付けの取組を積極的に行うなど健全経営にも配慮し、当期一般正味財産増減額が△74万円と、公益法人の要件である収支相償を確保しながら微減にとどめたことから、概ね対応等は良好とした。

5 総合評価

総合評価		コメント〔県所管部局記入〕（改善事項等）
B	改善の余地あり	財務の状況については、公益目的事業に係る収入が、その実施に要する適正な費用を償う額を超えないとする収支相償の原則に基づき、概ね収支均衡を確保する経営が行われており、令和3年度の一般正味財産は約1億2,956万円（前年度比△74万円）と、経営基盤は安定しているものと評価できる。 長期保有農地の発生防止等に係る取組、農地の集積・集約化に係る取組、新規就農者の確保に係る取組については、それぞれ一定の成果が見られているものの、一層の改善に取り組む必要があることから、引き続き関係機関等と一体となって、支援センターの経営安定に向けた取組を推進していくことが望まれる。 上記のとおり、経営安定に向けた課題に対する改善策が取られており、今後も取組の継続が望まれることから、B評価とした。